

「試験前で漠然と不安な状態」からのメ - ルだけに...

先日、国家試験を間近に控えたある学生から、次のようなメ - ル。

「先生、こんにちは。寒い日が続きますが、風邪など引いておられませんか？久しくメールできず、申し訳ありません。

国家試験まであと 日です。。。ほんとうに緊張しており、余裕のない日々です。

私事なのですが、去年から就職活動を続け、ようやく 日に内定をもらいました。という条件の求人数は非常に少ない状況だったのですが、本当に奇跡的に就職が実現できました。

勿論、内定云々ではなく、その後どのように働いていくかが問題であり、且つ重要であることは重々承知いたしておりますが、ここは素直に喜びたく。。。。

あとは、 日後の国家試験を乗り切るのみです。……。追い込みと、気合の意味をこめましてメールさせていただきます。

p s : 毎回本当に中身のないメールばかりで、申し訳ありません。今回は、試験前で漠然と不安な状態なので、先生から気合い入れてもらうべくメールさせていただきました。」

就職内定をわざわざ知らせてくれたことが嬉しい。

それ以上に、「資格取得はあくまで『手段』。それで当事者の存在・生活に何をどう支援できるか？という『目的』を常に思考するように！『手段』取得だけで、何か出来ると錯覚しないように！」と授業で口酸っぱく話していただけたに、「その後どのように働いていくかが重要」という言葉のあるメ - ルであったことが、嬉しい。

また、「試験前で漠然と不安な状態」の中で、私を思い出してくれたことも、嬉しい。

マ - クシ - トでの資格試験のような暗記ものは特に苦手で、資格試験というものにチャレンジすらせず、何一つ資格を持たない私。それだけに、色んな領域の難しい知識を学ぼうとする学生たちの姿勢に、いつも感心し、羨望のまなざしでみていた。

資格を持たない身だけに、「資格を取るように、頑張れ！」とも云えず、それなりに気合いを入れる返信をした。

今度は、簡単でいいから「国家試験、合格しました！」とのメ - ルを楽しみに待つことにしよう、っと。

(2005 年 2 月 19 日 記)